

富山経済同友会

会報

2022.7月
No. 308



第6回文化スポーツ委員会（称名滝）（6月17日）

CONTENTS

- | | |
|---------------------------|--|
| ● 第3回全国立山大使の会 …………… 2 | ● 第9回地域創生委員会 …………… 9 |
| ● 第1回委員長会議 …………… 2 | ● トピックス（観光事業振興功労者表彰） …… 9 |
| ● 第1回委員長連絡会議 …………… 3 | ● 第4回教育問題委員会 …………… 10 |
| ● 第1回交流委員会 …………… 3 | ● 課外授業講師派遣 …………… 10 |
| ● 第8回地域創生委員会（県外視察） ……… 4 | ● 教育講演会等講師派遣 …………… 13 |
| ● 第5回文化スポーツ委員会 …………… 6 | ● リレーエッセイ ^⑩ （林 清滋 氏） …………… 16 |
| ● 第6回文化スポーツ委員会 …………… 7 | ● 活動報告 …………… 17 |
| ● 第82回あけぼの会ゴルフコンペ …………… 7 | ● 今後の予定 …………… 19 |
| ● 第3回同友会経営道場 …………… 8 | ● わが青春の1枚（嶋 龍仁 氏） …………… 20 |

関係人口の拡大に貢献していこう！

— 第3回全国立山大使の会、2年半ぶり開催 —

「全国立山大使の会」は転勤等で、富山県外にお住まいの当会会員 OB・OG 有志に、退会後も富山県の魅力を発信してもらうと共に、会員相互の親睦・情報交換を行うことを目的として2017年11月に設立。2018年5月24日の初回キックオフミーティング、2019年11月の第2回に続き、今回「第3回全国立山大使の会」を5月6日(金)に東京駅近くの「過門香 KITTE丸の内店」で開催。全国立山大使の会会員12名、当会から役員等9名が参加した。

まず、麦野英順代表幹事が開会の挨拶を行い、「第3回全国立山大使の会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で6回も延期となり、2年半ぶりの開催とな



った。開催できて本当によかった」と再会の喜びを述べ、その間の当会のトピックスとして、新田元代表幹事の富山県知事就任、創立60周年記念式典・講演会、牧田和樹氏の代表幹事就任などを紹介した。

続いて、鶴殿裕世話人が、「全国立山大使の会の会員数が40名となった。富山県のキャッチフレーズ『幸せ人口1000万』の目標に向かって微力ながら関係人口の拡大に貢献したい」と挨拶した。

続いて、中沖雄交流委員長が全国立山大使の会の今後益々の発展を祈念して乾杯の発声を行った。その後、和やかな雰囲気の中、参加者各々がユーモアを交えて近況報告を行い和気あいあいとした楽しい会となった。

最後に、塩井保彦代表幹事が「各委員会の活動も全国立山大使の会の皆様と共有しながら進めていきたいと思う。今後共皆様とのご縁を大切にしていきたい」と抱負を語り閉会した。

7 委員長が方針を語る

～ 第1回委員長会議 ～

5月10日(火)、令和4年度第1回委員長会議をオックスカナルパークホテルで開催し、常任幹事以上の役員、各委員会の委員長の計19名が出席した。

会議では各委員長より活動方針と事業計画について説明があり、その都度質疑応答をしながら活発に意見交換を行った。

今年度の新たな取組みとして、年2回の委員長会議開催に加え、委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的として、企画委員長と各委員長による連絡会議・懇親会を四半期に1回開催する旨、高林幸裕企画委員長から報告があった。

また、麦野代表幹事から、「委員会数の削減

に伴い、委員会当たりの委員数が多くなり、発言の場が少なくなった」との意見を考慮し、委員会内に小委員会を設置してみてもとの提案があり、各委員長が検討することになった。

第2回委員長会議は11月8日(火)に開催し事業の進捗状況について報告を行う予定である。



委員長間の情報共有・連携を図る ～ 第1回委員長連絡会議～

6月8日(水)、第1回委員長連絡会議(高林幸裕企画委員長)を日本料理「俵屋」で開催し、委員長6名が参加した。同連絡会議は委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的として四半期に1回開催することになり、今回が1回目となった。

まず、高林委員長の挨拶の後、各委員長が、①5月10日の委員長会議以降の活動状況ならびに②委員長会議で意見があった「小委員会」の設置に関する検討状況を中心に説明した。

各委員長から様々な活動報告があり、その中でも人財活躍委員会がビジネスチャットツール「Slack(スラック)」を使用して正副



高林委員長

委員長間の情報共有を図っていることは他の委員会も参考になる取組みである。また、地域創生委員会では観光をテーマに、文化スポーツ委員会ではアスリート支援をテーマに小委員会の設置を進めている旨、説明があった。



交流事業について意見交換 ～ 第1回交流委員会～

5月16日(月)、第1回交流委員会(中沖雄委員長)を事務局会議室で開催。委員11名と大橋聡司アドバイザーが参加し、今年度の活動方針と活動計画について意見交換を行った。

冒頭、中沖委員長と大橋アドバイザーが挨拶し、その後、当委員会で予定されている今年度の交流事業について事務局が説明し、意見交換を行った。



中沖委員長

意見交換では、地域創生委員会の福岡・大分の視察〔5月30日(月)～31日(火)〕における大分経済同友会との交流会について報告があり、更なる交流事業の促進に向け、今後は他委員会の交流事業についても適宜情報を共有し、委員会相互の連携を図っていくこととした。また、8月の新会員歓迎オリエンテーション・懇親会について、新会員に加えて

紹介した会員も参加する等、運営方法に関する提案があった。

最後に7月31日(日)～8月7日(日)に実施する海外経済視察「オレゴン・サンフランシスコ」について意見交換を行った。8月3日(水)までは富山県視察団に帯同する日程となっており、視察中の新型コロナウイルス感染症の対応について富山県と事前に協議すべきとの意見が上がった。

委員会終了後は、富山電気ビルディングにて懇親会を開催した。



地域の競争力強化と活性化の秘訣を探る

～第8回地域創生委員会 県外視察～

地域創生委員会（山本覚委員長）は、第8回委員会として5月30日(月)から31日(火)にかけて、地域の国際競争力の強化に向けた取組を推進している福岡地域戦略推進協議会、食文化創造都市として循環型社会の形成・持続可能な都市づくりに取り組む臼杵市、温泉を通じた「免疫力日本一宣言」実証実験に取り組む別府市等を視察した。視察は新型コロナウイルス感染対策を実施のうえ、山本委員長はじめ委員15名が参加した。

（1）福岡地域戦略推進協議会 (Fukuoka Directive Council) 視察



加藤シニアマネージャー（左）、前田次長（右）

福岡地域戦略推進協議会は地域の国際競争力を強化するために成長戦略の策定から推進までを一貫して行う、産学官民一体のシンク＆ドゥタンクである。福岡市の枠を越え、福岡都市圏を核として、九州、隣接するアジア地域との連携を図り、事業性のあるプロジェクトを推進している。

福岡地域戦略推進協議会における地域の国際競争力の強化に向けた取組について、福岡地域戦略推進協議会事務局次長の前田真氏、シニアマネージャーの加藤篤氏より概要説明をいただいた。

<福岡地域戦略推進協議会 説明要旨>

- ・国際地域ベンチマーク協議会（IRBC）への参加により、都市圏単位の産学官民連携が重要であることの認識を得て、2011年に財界等が中心となって設立したものであり、地域の国際競争力の強化に向けた取組を推進している。設立当初は36団体で発足し、現在217団体の企業、大学、自治体等が所属している。半分以上は、福岡都市圏外からの参画である。

- ・域内と域外の企業のコラボレーションによるイノベーションを創出する狙いがあり、オープン



- イノベーションプラットフォームとして、公共政策の連動や、会員の新規事業創出、スタートアップの成長等を通し、新たなサービスやテクノロジーの社会実装を推進している。
- ・当会の特徴として、大きく二つの支援体制が存在する。一つに「部会」であり、部会長のもとで地域戦略に基づき産学官民が連携して福岡都市圏の大枠の方向性や、公共政策を伴う政策立案と実行を行い政策連動に取り組んでいる。二つに、福岡地域戦略推進協議会の事業化・コンソーシアム支援において、プロジェクトの運営、オープンイノベーション及び事業開発機能、企業の国際化と海外企業の誘致、事業展開支援を行っている。



Fukuoka Growth Next
(廃校となった小学校を転用した創業支援施設)

（２）臼杵市・別府市視察

臼杵市は2020年、ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）に食文化で加盟する方針を決め、2021年2月に臼杵市食文化創造都市推進協議会を設立して加盟申請を行い、同年11月8日に加盟が認められた。臼杵食文化創造都市の挑戦について、大分経済同友会調査部長の三浦宏樹氏より概要説明をいただき、大分醤油協業組合の視察を行った。

また、別府市は療養効果を測定する「免疫力日本一宣言」実証実験に取り組んでいる。株式会社みょうばん湯の里の飯倉里美氏（大分経済同友会観光・インバウンド委員長）より概要説明をいただき、明礬湯の里等の視察を行った。

＜臼杵食文化創造都市 説明要旨＞

- ・臼杵市は、地質と地形に生み出されたまろやかな柔らかい水に恵まれ、この水を活かした醸造業が1600年頃から始まり、人々が伝統を守りつつ、改良を加えてきた味噌・醤油・酒造りや、質素倹約の中で知恵を絞って生まれた郷土料理など、多様な食文化が発展してきた。
- ・臼杵市土づくりセンターが草木等を発酵させた完熟堆肥を生産し、生命力のある土づくり環境を整備し生産者、消費者ともに食の重要



三浦調査部長



大分醤油協業組合視察

性について理解を深める取組をしている。食の多様性・持続性を高める臼杵市の活動は、SDGsの様々な目標と合致し、持続可能な都市づくりにつながる。発酵と循環でめざす臼杵食文化創造都市は水と土の循環を図る諸事業を戦略的に推進している。



飯倉観光・インバウンド委員長（中央）

＜免疫力日本一宣言 説明要旨＞

- ・別府市と別府市旅館ホテル組合連合会と九州大学都市研究センターは2021年4月に、包括提携協定を結び、温泉に一定期間入ることによって療養効果の有無を測定する「免疫力日本一宣言」実証実験に取り組んできた。
- ・2021年12月には温泉の入浴により疾病リスクの減少が見受けられたことを中間報告した。今後、2022年度中を目途に学術論文を発表する予定である。観光地（温泉地）に甘んじず、地域資源の再評価と発信力強化に向けて新たな取組に挑戦し続けていく。



明礬 湯の里にて



富山の伝統文化・歴史を学び、和の文化を体験 — 第5回文化スポーツ委員会 —

第5回文化スポーツ委員会(島田好美委員長)を5月17日(火)に開催し、南砺市城端などを訪問、委員15名が参加した。

はじめに、株式会社松井機業を訪問し、城端絹織物の生産工程を見学した。



株式会社松井機業では、松井渉さんに、「城端絹」の成り立ちと伝統的な製造技術についてお話を伺った。絹本来の美しさを引き出す機織りの技術、自然由来の光沢を生かす精錬や染色、しけ絹と和紙を張り合わせる技術、桑の栽培、養蚕、糸繰りなどを解説いただきながら施設を視察した。絹織物の需要が時代とともに変化する中で、機



の音は途絶えさせない想いが込められていることを感じるものであった。

その後、城端曳山会館を訪問。城端蒔絵十六代 小原治五右衛門さんから300年にわたる、城端曳山祭の曳山の特徴や、先代から携わってきた修復作業などを解説いただきながら館内を視察した。伝統工芸は今にあり、これから常に独創的な展開をしていくことが求められていること、グロー



篠笛に聴き入る参加者一同

バルはローカルを極めることに繋がり、地域を大切にし、発信力で得られる成果を町に還元する重要性について解説いただいた。

昼食後、となみ野庄川荘にて、三遊亭良楽師匠から、着物の所作や落語に対する思いについてお話を伺い、落語を傾聴した。着物により女性のしぐさを表現できることや、落語ではセンス・手ぬぐいを用いて様々な表現ができることに触れ、落語を聞いて、想像力を養うことの大事さについて解説をいただいた。軽妙な語り口を通して、落語の魅力に引き込まれる一時であった。



富山の伝統文化と歴史や魅力を学び、和の文化を体験し、富山の伝統文化と歴史の新たな価値に触れ、知見を深める貴重な機会となった。

富山の伝統文化と歴史や魅力を学び、和の文化を体験し、富山の伝統文化と歴史の新たな価値に触れ、知見を深める貴重な機会となった。



となみ野庄川荘にて

立山の自然に触れ立山信仰を学ぶ

～ 第6回文化スポーツ委員会 室堂・称名滝視察 ～

第6回文化スポーツ委員会は6月17日(金)、立山信仰の続編として室堂と称名滝を視察し、会員14名が参加した。

昨年の第1回委員会で「癒しの立山曼荼羅の世界」と題し講演いただいた立山ガイドの佐伯知彦氏を講師に招き、立山信仰の続編として室堂を視察した。



佐伯講師



室堂の火山岩と深成岩の並存を解説する佐伯講師

はじめに、佐伯氏は、立山信仰の源である立山の地形、地質や気象と植物の分布に関する特徴を説明。

その後、「日本三霊山」の一つである立山について、室堂周辺を巡りながら、古来より崇め

られてきた立山信仰について解説いただいた。

昼食後、雨天のため、弥陀ヶ原視察を取り止め、称名滝に移動。佐伯氏から、悪城の壁は称名川の浸食により形成された希少な地形であり、称名滝の一带は保護すべきラムサール条約登録湿地区域であると説明を受けた。

立山の魅力と立山信仰の壮大な世界を肌で体感する機会となった。参加者からは単なる見学ではなく、佐伯氏のガイドにより、富山の自然について知識を深め、雷鳥を至近距離で観察し、貴重な体験ができたという声が寄せられた。



地獄谷を見立てた立山地獄を望む



第82回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は奥野博之氏 —

6月18日(土)、呉羽カントリークラブ立山コースにて、第82回あけぼの会ゴルフコンペを開催し、58名のあけぼの会会員が熱戦を繰り広げた。

懇親会は麦野英順代表幹事の挨拶と中尾哲雄特別顧問の乾杯で始まり、盛り上がりのうちに表彰式へと続いた。

優勝の栄冠はネット70.4で奥野博之氏(オークス(株))が獲得、麦野代表幹事から優勝賞品と記念品の富山ガラス工房の花器が手渡された。優勝の弁で奥野氏は、今後も精進し良いスコアを目指していきたいと述べた。



また、麦野・塩井・牧田代表幹事から代表幹事賞の提供があり、麦野代表幹事賞は、稲葉伸一氏(株三四五建築研究所)が、塩井代表幹事賞は森田弘美氏(株グループフィリア)が、牧田代表幹事賞は森幹男氏(森商事(株))受賞し、

それぞれ富山県ゆかりのガラス作家による作品が贈られた。

終盤、あけぼの会の森相談役(前世話人代表)から「昨年世話人代表を退任させていただき、大変長い間お世話になりました」と感謝の言葉が述べられ、続けて長谷川達雄世話人代表からは「秋は松茸を準備するため、次回も是非参加していただきたい。本日はありがとうございました」と感謝の念を述べた。

最後は塩井代表幹事の挨拶で、懇親会を締めくくり、あけぼの会の第一義である「親睦」がますます深まった一日となった。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	奥野 博之	43	44	87	16.6	70.4
準優勝	吉村 直樹	39	47	86	15.4	70.6
3位	岡部 雅弘	47	46	93	21.3	71.7
4位	高林 幸裕	42	38	80	8.3	71.7
5位	米原 蕃	46	46	92	20.1	71.9



「事業承継」、「夢を追い求めて」

— 第3回同友会経営道場 —

企業経営委員会(伊勢徹委員長)は、第3回同友会経営道場を6月23日(木)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催し、33名の委員が出席した。

今回は、羽根由氏(㈱生活ネット研究所代表取締役)と米田祐康氏(金剛薬品㈱取締役会長)が発表を行った。

最初に発表した羽根氏は、㈱生活ネット研究所の起業から、後継者への事業承継までを語った。特に、事業承継時の取組みや決意として、社員とボトムアップミーティングを重ね、社員が納得する形で次の代表者を決めたこと、株などを譲渡する際、次世代に負担をかけないようにしたこと、どんな時でも自分が新体制の一番の応援団長になるんだと肝に据えたことなどを挙げた。そして、新型コロナウイルス



伊勢委員長



羽根代表

により業界全体が大打撃を受ける中で、西田新社長が新ビジネスを展開していることを説明し、「事業承継に求められることは、承継ではなく『第二の起業』である」と述べ、発表を締めくくった。

続いて発表した米田氏は、はじめに、現在のニッポンジーンの研究のルーツとなる東京大学大学院やアメリカの大学での研究生活を振り返った。そして、帰国して父が創業した



米田会長

金剛薬品に入社したものの、「ものを売るよりも、自身のバイオの技術で何か人のためになるものをつくりたい」という思いから、入社後すぐにバイオテクノロジー・ベンチャー企業を立ち上げたというニッポンジーン設立の経緯に触れた。最後に、新型コロナウイルスの検査効率を大幅に向上させる画期的なPCR検査キットの開発について説明し、「この検査システムを全世界に広める夢を描きながら、今、最後のチャレンジをしている。その夢をもうしばらく追い求めていきたい」と熱く語って発表を終えた。

発表後に行ったグループディスカッションでは、各グループによる活発な意見交換がなされ、今回も活気あふれる経営道場となった。



活発な意見交換

福井県の観光戦略を学ぶ

～ 第9回地域創生委員会 ～

6月29日(水)、富山電気ビルディングにおいて第9回地域創生委員会（山本覚委員長）を開催し、委員ら68名が参加した。

冒頭に、山本委員長より「今後、北陸新幹線敦賀延伸等を控え、県内・北陸地方でのマイクロツーリズムの研究を深めたい」と挨拶があった。



山本委員長

第1部は、公益社団法人福井県観光連盟 専務理事の坪田昭夫氏を講師に招き、「100年に1度のチャンスに向けて～福井県の観光戦略・取組状況～」と題し講演をいただいた。



講師 坪田昭夫氏

坪田氏は、北陸3県の主要観光地の観光客入込数や観光交流人口の増加がもたらす経済効果についてデータを用いて解説。福井県における高速交通網の整備進展を見据え、観光推進は地域づくりの一つの手段とし、福井県観光連盟は「登録DMO（観光地域づくり法人）」として、

推進体制の強化を進めていることを紹介。

委員からは「歴史の魅力発信に関する考え方」や「各所に存する観光資源の通年型観光に対応する施策について」などの質問がなされた。

坪田氏は、歴史資源の解説に対応するガイド育成・体制確立に向けた取組や、Maas導入や観光資源の魅力を掘り下げる取組を行っているとし、意見交換を通して、一同が北陸地方の連携の必要性を改めて認識するものとなった。



講師に委員から活発な意見・質問がなされた

第2部では、山本委員長が本年度の観光分野取組みとして、とやま観光小委員会設置に伴う委員の募集ならびにフィールドワーク1泊2日等（遠方）観光プランの募集について説明を行い、幅広い富山の魅力の発信に向けて、多くの委員の応募と協力を呼びかけた。

外国人宿泊者需要の回復、北陸新幹線敦賀延伸などを見据えた観光のあり方について研鑽し、本県の地域活性化に向けて、果たすべき役割が明確となる委員会となった。



令和4年度観光事業振興功労者表彰

～ 観光振興に寄与するフィールドワークの取組みを評価 ～

塩井保彦代表幹事は、6月30日(木)、富山県民会館で行われた令和4年度観光事業振興功労者表彰式に出席し、公益社団法人とやま観光推進機構から観光事業振興功労者表彰を受けた。

地域創生委員会が2年にわたり取りまとめた「富山の経済人が本気で考えて実際にやってみた！とやま半日観光コース」・「富山の経済人が本気で考えて またまた 実際に

やってみた！とやま1日観光コース」で、富山の魅力を幅広く発信する取組みが評価され、本県



の観光振興やイメージアップへの功績が顕著であるとし表彰されたものである。



特別支援教育の理解促進に向けて

～ 第4回教育問題委員会 ～

6月13日(月)、オークスカナルパークホテル富山において、第4回教育問題委員会（高瀬幸忠委員長）を開催し、委員23名が出席した。

委員会は、第一部を「令和3年度の活動総括」及び「令和4年度の活動計画」の報告、第二部を「特別支援教育の理解促進」をテーマとする講演会とし、二部構成で行った。

第一部では、高瀬委員長より、今次委員会の活動方針である、「提言の実践」、「学び方改革の推進」、「大学との連携」について、令和3年度の取組みと、令和4年度の活動計画の報告を行った。



高瀬委員長

第二部では、SDGsの最も重要な考え方、「誰一人取り残さない」の実践として、特別支援教育の理解促進を図るために、富山県教育委員会 県立学校課 特別支援教育班 山川俊幸班長を講師に迎え、「特別支援教育の理解啓発に向けて～子どもを真ん中に置いた視点で考える目指す姿～」と題しご講演いただいた。

山川氏は、特別支援教育を受ける子どもが増加している現状を示したうえで、一人一人の教育的ニーズに的確に応えられる多様な学びの場を提供することが今後目指していく姿であると述べた。



山川講師

次に、特別支援学校の卒業生の就職状況を説明し、障害のある子どもたちの自立や社会参加を実現するためには、切れ目ない一貫した支援が必要であり、そのためには、企業と学校、家庭といった子どもたちの関係者をつなぐ横のつながりと、小学校から中学校、高校、大学、就労先までのライフステージをつなぐ縦のつながりの両方が大切だと語った。

終わりに、障害者が積極的に参加・貢献できる社会は、誰もが相互に人格と個性を尊重し合い、一人一人が多様な個性と能力を発揮できる社会であり、こういった社会をつくることによって、一人一人にとって究極的に良い状態、ウェルビーイングをもたらすことができると述べて講演を締めくくった。



「夢をもつこと、働くこと」

— 課外授業講師派遣 —

第1回 高岡第一高等学校

6月7日(火)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)が高岡第一高等学校にて1学年186名を前に「自分の夢の見つけ方～高校生活で意識したいこと～」をテーマに課外授業を行った。

山野社長は冒頭、「高校時代は人生で最も元気で、最も無理がきいて、最も頭が良く、最もバカで、最も思い出に残る3年間。どう過ごすかは自分で決めるしかない」と述べた。

そして、自身の高校生活の良かった点・反省点を振り返りながら、高校時代に意識しておくこととして、「高校時代の友達は一生の友達。高校生活は友達づくりが大切なので、友達になりたい人がいたら積極的に心を開くこと」、「目標が低いと自分で壁を作ってしまうので、目標を高く設定しすること」、「やるべきときに、やるべきことをすること」を挙げた。

続けて、「自身の本当にやりたいことや夢はそう簡単には分からない」と述べ、充実した人生のためには、「考え続け、一日一日を一生懸命に生きるしかない」、「迷ったらやる。一歩踏み出すことで変化が生まれる。いろいろと悩む

こともあるが、行動すれば思ってもみなかったことが起きる可能性がある。やってみないと分からない。面白いことは自分で探そう」と語った。

さらに、自分の夢を見つけるには、

「知識を得る」、「大人に聞く」、「やってみる」、「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であると述べ、「これからいろいろと選択に迷うことがあると思うが、どちらを選んだ方が正しいのかは一生分からない。大事なものはこれを選んでよかったと思えるようにその後の自分の行動で正解にしていくことである」と説いた。

最後に、充実した高校生活を送るために、「未来は今日一日の積み重ね。充実した未来のために充実した今日を生きよう。みなさんには無限の可能性がある。勉強、スポーツ、芸術、恋などいろんなことに真剣に取り組もう」とエールを送って授業を締めくくった。



第2回 富山市立奥田小学校

6月15日(水)、島田好美氏(株)島田商店代表取締役)が富山市立奥田小学校にて6学年74名を前に「仕事の話～いろんな仕事に出会ってみれば～」をテーマに課外授業を行った。

島田社長は、まず、自身の小学生時代から島田商店の経営者になるまでを振り返りながら、どのようにして自分の将来を考えてきたかを語った。

その経験を通して伝えたいこととして、「夢を持ち続けてほしい。夢が実現するかどうかではなく、夢を持ち、そこに向かっていく過程こそが夢。その中では、たくさん悩むことがあると思う。その悩んだ時間も将来の自分にとっては宝物になる。いろいろな人と出会い、いろいろな体験をし、それを通して、自分に向いている仕事が何かいろいろと試してほしい」と述べ、「大人はみんなで見守っているから不安なく将

来を探してほしい」と激励した。

質疑応答の時間では、多くの児童が手を挙げた。

「自分には夢があるけど、自分はその仕事に向いていないと思う。どうしたらいいですか」という質問に対しては、「例えば、サッカー選手になりたくても、一流選手になることはなかなか難しい。でも、コーチやユニフォームの開発など、サッカーに関連する仕事はたくさんある。そういったことを探してみたらよいと思う」とアドバイスした。

最後に、「どんな仕事にも働く意義がある。どんな仕事も大事な仕事なのだと理解してほしい」と強調して、授業を締めくくった。



第3回 高岡市立牧野中学校

6月15日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校にて2学年86名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、人生に占める就学期間、就労期間の長さを図で示しながら、「働くことは人生の中で大きなウェイトを占める。働くことがいかに大事なことをまず理解してほしい」と訴えた。

続いて、「何のために働くのか」と生徒たちに問いかけながら、「働いて対価としてお金をもらって、それで生活することが正しい生き方。だが、やりたいこととお金を稼げることは同じではない。人生、長い時間働くので、嫌いなことを仕事にしても面白くない。好きなことをやって充実させる。やりたいこととお金を稼げることを重ねることがベストだ」と述べた。

そして、やりたいこととお金を稼ぐことを重ねるには方法が2つあり、1つは、稼げるよう

になるまでやりたいことを極めること、もう1つは、お金を得られる仕事の中から、一番やりたいと思うことを見つけることだとし、「やりたいこと、夢を持つことが大切。だが、思うだけでは実現しない。まずは、夢に向かって努力しなければならない。それでも叶いそうになかったら、いろいろな情報を集めること。自分の夢に関連する仕事には他にどんなものがあるのか情報を集めることが大切」と語った。

最後に、「働くことはただお金を稼ぐことではなく、人生を送るうえで成長することと同じ。成長するために働いている。そうやって働く人生はよりよいものになっていく。働きながら成長し続けよう！」と熱いメッセージを送り、授業を締めくくった。



第4回 高岡市立戸出中学校

6月20日(月)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立戸出中学校にて2学年106名を前に「働くとは」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、「買いたくても買えないものは何？」と生徒たちに問いかけ、「時間」は皆に平等に与えられたものであり、過ぎた時間は誰にも取り戻せない、何もせずに過ごして無駄にしないよう、時間を大切にしなければならないと説いた。

続けて、長い人生の中で働く時間は、非常に大きなウェイトを占めており、その時間を充実させることが時間を大切にすることにつながると述べた。

次に、人間の本質的な欲求として、自己実現の欲求があり、目的に向かって努力し、その結果が報われたことを自分で認識できたら人はうれしいものだと説明し、「働くうえでも、ただ

言われたことをやるのではなく、必ず目的を持ってほしい。目的をもって働き、目的をクリアすることで、できなかったことができるようになり、喜びが生まれ、成長することができる」と語った。

最後に、14歳の挑戦に向けたアドバイスとして、「この会社はどうやって儲けているのか、どうやって社会の役に立っているのかを自分なりに考えてほしい。それによって、そこで働く人の目的が見えてくる。その目的に向かって努力すれば、成長できる。皆さんにとって実り多い時間になることを祈っている。」と激励し、授業を締めくくった。



第5回 富山市立興南中学校

6月24日(金)、富山市立興南中学校において、「14歳の挑戦」を目前に控えた2学年89名に対して、荒井洋平氏(株)宝来社代表取締役)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ(株)代表取締役)、辻井益雄氏(株)富花取締役会長の3氏が「働くことの意義と心構え」をテーマに課外授業を行った。

＜荒井洋平氏 (株)宝来社 代表取締役＞

荒井代表は、冒頭、宝来社はデザインをして工事をする会社だと紹介したうえで、生徒たちに、「デザインって何？」と問いかけた。

教室からは、「見た目」や「設計図」という意見が出た。それに対して、荒井代表は、解決すべき課題や達成したい目的があって、それを解決、達成するために試行錯誤して形にするプロセスがデザインであり、デザインには目的があると述べた。

続いて、「身の回りでデザインされているものを探してみよう」と投げかけた。荒井代表は、文房具、教室の机や椅子、道路、まち全体、目に見えるものほほすべてがデザインされていると説明し、「目に見えるものがそれぞれ、誰がどのような意図でデザインしたのかを考えると、社会を広く見るきっかけになる。また、デザインされたものが、どう作られて、どういう経路をたどって自分のところまで来たのかを想像することで、それに携わるいろいろな人々の仕事が見える。社会にどういう仕事があるのかを考えるきっかけにしたい」と語った。

終わりに、14歳の挑戦に向けた心構えとして、マナーの大切さについて説明した。そして、「マナーには、自分が相手と同じ文化を共有していることを示して仲間意識を作る効果があり、人が狩猟生活をしていた原始時代には、生存していくうえで必要なものだった。今はそのような時代ではないが、世界中の人とすぐにつながれる時代。時代や文化によって、マナーは変わるが、その都度、何が正しいか、相手がどう思うかを自分の頭で考えて、いろんな人と仲間意識をつくってほしい」とアドバイスして、授業を締めくくった。



＜尾山謙二郎氏 (マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役＞

尾山代表は、はじめに、これからの世の中がどう変わっていくか頭に入れてほしいと語りかけた。今までは、ピラミッド型社会で、権限や責任は、ピラミッドの上部にあり、下の人たちには責任がなかったが、これからの時代は、コスモス型になる。中心に皆が共有する目的や目標があり、周りに、それを形にしていこうと、花びら＝人が集まる。この人たちがそれぞれの責任を応分に負いながらミッションを達成していく。コスモス型社会では、皆に責任がかかるので、しっかり生きていかねばならないと説いた。

次に、「作業」と「仕事」の違いについて、作業は、自分が食べるための生業を作ることであり、自分のためにやるもの。一方、仕事は、仕えること、人や社会のためにやるものだと説明したうえで、「これからいろいろな職業に就くと思うが、作業を仕事にできるかどうかは、皆さんの腹一つ。どんな思いで取り組むかによって、どんな作業も仕事にできる。与えられたものをやるだけでも悪くはないが、その先を見なければ、作業を仕事にしてほしい」と語った。

終わりに、自身の経験をもとに、「後悔」と「反省」の違いについて述べ、「どんどん挑戦してどんどん反省してほしい。やったことは十中八九失敗するが、反省して前に進めばいい。『失敗したことがない』と言う人は挑戦していない人。何かに挑戦すれば必ず失敗するが、だからこそ、次の術を学び始められる。やろうと決めたことを必ずやって後悔のない人生を送ってほしい。そこから道は拓ける。」と激励し、授業を締めくくった。



＜辻井益雄氏 (株)富花 取締役会長＞

辻井会長は、はじめに、「梅檀は双葉より芳し」のことわざを引き、香木の梅檀は、双葉が少し出た頃から良い香りがする。人も同じで、若い頃から、皆どこかに必ずいいところがある。それは人によって違うが、それをどう伸ばしていくかが大事だと生徒に語りかけた。

次に、14歳の挑戦に向けての心構えとして、挨拶や服装、ノックのしかたなど、様々なマナーを紹介しながら、マナーは、「知らないから」で通すこともできるが、マナーを知っている人にとっては、マナー違反は不快なものなので、マナーは大切にしなければならないと説いた。

最後に、辻井会長は、自身の「18歳の挑戦」として、高校を出た後、大学には行かず、東京日本橋の花慶商店に奉公に出たこと、その後、日本にはまだ「フラワーデザイン」という言葉が入っていなかった時代に、アメリカ・シカゴの学校でフラワーデザインを学んだこと、アメリカの次には、パリの花屋で働いて勉強したことなど、自身の挑戦のエピソードを語り、挑戦することの大切さを生徒たちに伝えた。

講義の締めくくりには、辻井会長は、「『14歳の挑戦』として、花束をつくってみよう」と、持ち込んだバラの花で、生徒2名に花束をつくらせた。生徒たちは、初めての花束づくりに戸惑いながらも、辻井会長の助言の下、大きな花束を完成させた。花束は、誕生日が近い生徒にプレゼントされることになり、教室中が盛り上がった。



第6回 舟橋村立舟橋中学校

6月24日(金)、伊東潤一郎氏(アイティオ㈱取締役社長)が舟橋村立舟橋中学校にて2学年40名を前に「働くとは」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長は、はじめに、「将来何になりたいか」を生徒たちに問いかけた。そして、「将来なりたいものがまだ決まっていない人も多いと思うが、勉強して様々なことを学ぶことで、人生の選択肢を増やすことができる。勉強した人だけがいろいろな道を選ぶことができる。」「いろいろなことに興味を持ち、いろいろな話を聞くことで、より高いところからものごとを見通す力をつけることができる。」と勉強すること、好奇心を持つことの大切さを説いた。

次に、自社や他社の企業理念を紹介しながら、「会社」は、社会を豊かにしたり、人を幸せにするために存在していると説明し、「将来やってみたい仕事を考えるときには、その仕事は誰

をどう幸せにできる仕事なのかを考えることが大切。」と訴えた。

最後に、自身が人生の中で一番大事にしていることとして、次の3つを紹介した。①成功の反対は失敗ではない、何もしないことである。何かをやってみて、失敗して、それを直すからこそ初めて成功がある。何もやらない人には成功も失敗もない。②人生には与えたものが返ってくるという目に見えない法則がある。人を喜ばせてあげると、必ずどこかで自分に返ってくる。③与えられた課題は「先送り」できるが「逃げ切る」ことはできない。

そして、「これらの意味に早く気づくことでより幸せな人生が送れる。」と締めくくり、授業を終えた。



教育講演会等講師派遣

「企業が学校教育に求めるもの」 伊東潤一郎氏・キャリア教育推進委員会にて講演

5月18日(水)、伊東潤一郎氏(アイティオ㈱取締役社長)が富山県キャリア教育推進委員会にて県立高校教諭約40名を対象に「インターンシップ受入れ企業が学校教育に求めるもの」と題して講演を行った。

伊東社長は、企業の存在意義は付加価値を付けることであり、企業が存在するためには、「CS:顧客満足」が必要だとし、学校を企業活動になぞらえて、学校現場にとってのCSとは何かを、受講者に問いかけながら説いた。

企業にとっての「お客さん」は社会だが、学校にとっての顧客・商品は何かという伊東社長の問いに対し、受講者からは、生徒や保護者が顧客で、商品は教育・授業だという声が上がった。伊東社長は、その考えも誤りではないとしつつも、顧客は「社会」で、商品は「子どもたち」だとし、学校が社会に提供するものとは、社会に適応した子どもたちを提供することであり、学校にとって保護者は顧客ではなく、子どもたちという商品を育

てる上での協力企業であると述べた。

続いて、インターンシップ受入れ企業としての立場から問題点を挙げた。働くことは、楽しくないことが8割で、何かをやり遂げたときに2割の大きな達成感、喜びがあるのだと教えずにはならないが、一週間のインターンシップでは働くことの楽しさしか教えられない。この背景には、教員が生徒の受入れ先企業を探すことに追われており、インターンシップの趣旨や目的を企業の側に十分に伝えられていないことがあるとし、教員が受入れ先探しではなく、インターンシップの目的達成に注力できるような環境を経済界がつくっていかねばならないと語った。

最後に、「経済界には学校教育に協力しなければならないと考える人がたくさんいるので、企業に対して、『なぜインターンシップをするのか』、『子どもたちをどう成長させたいのか』を遠慮なく伝えてほしい」と強調し、講演を締めくくった。



次世代を担う教員へのメッセージ

富山市中堅教諭等資質向上研修で講演



<長 高英 氏>

長常務は、はじめに、自身が社内で歩んできたキャリアを紹介しながら、会社の中では、さまざまな階層の職位とその職位に求められる能力水準が定められており、評価を受けて職位が上がっていく。入社間もない頃は、自身の担当業務を遂行することが求められているが、上位層になると、部下への指導助言や組織間の連携、会社全体を考える幅広い視野と視点など、求められる能力が変わってくると説明した。

次に、リーダーには様々なタイプがあるとし、「法の支配」によるリーダー：秦王政、人間的な魅力により「人の力を使う術」を身に付けたリーダー：高祖・劉邦、文章と演説によって人々の心を動かす「言葉の力」を備えたリーダー：ジョン・F・ケネディ、そしてこれらすべてを兼ね備えたリーダーとしてカエサルを紹介した。

さらに、長常務が望ましいと思うリーダーは、メンバーよりも能力が秀でているがメンバーのやる気を引き出せないリーダーではなく、メンバーと能力

は同等であってもメンバーのやる気を引き出すことができるリーダー、つまり、集団としての力を引き出す能力を有するリーダー、メンバーを育てることができるリーダーだとした。

そして、そのようなリーダーに共通することは、メンバーに関心を持って表情や仕事ぶりなど観察し、小さな変化に気付くことができ、メンバーが失敗しても見切りを付けずに育てることだと述べたうえで、「このような素養は、教育者に共通する。よき教育者は良きリーダーである。よき教育者を目指していけば、よきリーダーになれる」と説いた。

最後に、「偉人に近づくために努力をすることは大切だが、自らのスタイルに合ったやり方でないと長続きしない。自分が望む方向に、自分に合ったやり方で、自らが成長することがリーダーになる近道」、「教える側、指導する側にばかりいると、わからない人の気持ちを忘れてしまうので、常に新しいこと、わからないこと、苦手なことに挑み、謙虚な姿勢で人に接してほしい」とアドバイスし、「教育者にはリーダーシップの素養があるので、自分たちのスタイルで、自信をもってやってほしい」と激励して講演を終えた。



<寺島 雅峰 氏>

寺島代表は、長年にわたりPTA役員を務めた経験を紹介し、PTAの立場から中堅教諭に求めるものについて語った。

はじめに、新学習指導要領に基づく新しい教育が始まったことを取り上げ、「教育内容が大きく変わり、現場にいる教員は対応が大変だろうが、新しい教育、特にICT教育は、年齢層が高い教員には対応が難しい。みなさん中堅教員が中心となつてうまく活用してほしい」と激励した。

次に、憲法や教育基本法の条文を紹介しながら、「学校のみが日々の様々な課題に対応する責任を有しているかのような認識が生まれやすいが、学校、家庭、地域がそれぞれ役割を持っている。そもそも、子どもの教育に第一義的な責任を負うのは親である」と説明したうえで、PTAについて、「学校に子育てを任せ過ぎないように、当事者意識を強く持つよう活動する『学校教育の大きな支援者』がPTA」と述べた。

そして、教員の多忙化についても触れ、教員の多忙化による犠牲者は子どもたちなので、PTAは多忙化解消に向け、県や市に要望を行っていると説明し、「現場の教員の生の声を、PTAに伝えてほしい。PTAから県や市に要望して改善に繋げていきたい」と語った。

さらに、中堅教諭に期待していることとして、①社会とのつながりの経験を広げてほしい。学校現場は先生ばかりだが、他のいろいろなところに顔を出すことで、新たな学びや気づきが得られる。②PTAは協力者なので、積極的にかかわってほしい。後に教頭や校長など、学校運営に携わるようになった時に、PTAとの人脈が役に立つ。③保護者は真正面から話をする分かってくれる人ばかり。先生と保護者という関係ではなく、人と人の関係を構築する術を見出してほしい、と述べた。

最後に、「教師という職に誇りを持ってほしい。舵取りが難しい将来の日本を背負っていく子どもをみなさんが教えている。そういう意味ではみなさんが将来の日本をつくっている。いろいろな活動に参画、挑戦して、いろいろな視点、経験を持って人間力を養い、子どもたちのために頑張してほしい」と熱く語り、講演を締めくくった。

令和4年6月30日(木)、長高英氏(北陸電力(株)常務執行役員)、寺島雅峰氏(株)寺島コンサルタント代表取締役)、丹羽誠氏(有)ライフプラン研究所代表取締役)、牧真奈美氏(株)クルサー代表取締役)の4氏が、経験年数11年目の教員81名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山県教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



<丹羽 誠 氏>

丹羽代表は、はじめに、リーダーシップの型は時代とともに変化していると述べ、6つのリーダーシップの型を紹介した。①リーダーシップ1.0(～1920年代):本田宗一郎氏などカリスマ性を持った中央集権的なリーダー。②1.1(～1960年代):事業組織ごとに権力を分権。③1.5(～1990年代):バブル崩壊前の日本型経営の組織のトップ。会社が終身雇用で社員の面倒を見るから、その代わりに指示に従え、という家父長的なリーダー。④2.0(～2000年代前半):バブル崩壊後に現れた、今までのやり方を変えていく変革者としてのリーダー。⑤3.0(2000年代～):現代の理想的なリーダー像で、支援して一人一人の力を引き出す、支援者としてのリーダー。⑥4.0(現在):多様性を認める世の中で、個性を持った各メンバーが役職者の干渉なしにそれぞれのゴールを目指して自己表現することを助けるのがリーダー。

続けて、これらのリーダーシップの型には優劣

はないが、それぞれの型を知っておくことで、上司や部下の言う「リーダーシップ」がどの型かを考え、相手に合わせて対処することができ、また、組織ができた頃の頃は、カリスマ性を持ったリーダーが求められるなど、組織の成熟具合によって求められるリーダー像が異なってくるが、それに適応することができると語った。

次に、リーダーシップとマネジメントの違いについて、リーダーシップは「革新する」こと、マネジメントは「維持する」ことであると説明し、その後のグループワークを通して、組織にはリーダーシップ型の人間とマネジメント型の人間がいることを受講者に気付かせた。

そして、「リーダーシップとマネジメントは両方必要であり、使い分けが重要。リーダーシップ型だけ、マネジメント型だけの組織はうまく行かない。部下がリーダーシップ型ばかりであれば、リーダーはマネジメント型を演じるべき。そうすると、組織はバランスをとることができる。リーダーは、他のメンバーを見て、自分がリーダーシップ型とマネジメント型のどちらを演じるべきか、立ち位置を考えてほしい。そうやって組織をうまく運営してほしい」とアドバイスをし、講演を締めくくった。



<牧 真奈美 氏>

牧代表は、はじめに、自身が設立した介護サービス事業所、(有)ケアサポート・まきの事業内容を紹介し、介護の現場では、看護師、介護職や他の様々な職種がチームで働くので、良好な人間関係が大切と説明した。

続いて、ケアサポート・まきを経営する中で起こった人間関係の失敗談を紹介した。デイサービスをオープンして数年経ち、仕事が軌道に乗って忙しくなった頃、スタッフが次々と辞めていった。辞める際、「牧さんについていけない。私は牧さんのように優秀ではない」と言われた。当時の牧代表は、誰よりも一所懸命努力をして頑張ったのに、とショックを受けたが、自身を省み、仕事に対する価値観は人それぞれ違うのに、スタッフに対しても自分のように仕事に全力投球するのが当たり前というプレッシャーを与えていたことに気付いた。

そして、この失敗から「人は自分と同じ考え、同じ価値観ではない」、「『わかってくれるだろう』は

ない。ちゃんと相手に伝わる言葉で伝える」「人は変えられない。変わるのは自分」ということを学んだと述べた。

最後に、牧代表が部下との関わる中で心掛けていることとして、①一方向ではない、双方向の信頼関係を作ること。感情のままに相手におつからず、自分の感情をコントロールし、本当に伝えたいことを言葉にして相手に伝える。相手の言動に対し、相手の言葉で理由を聞く。褒める時、注意する時は、相手に合った言葉を選ぶ。②最終決断は自分。責任も自分が持つという覚悟。信頼して任せたからには、失敗しても責めない。③箱ではなく、風呂敷のような器になり一つにまとめる。四角い箱には小さな四角い箱しか綺麗に並ばないが、大きな風呂敷であれば、丸い形やいびつな形のものも自由な形にまとまる。それぞれの個性を壊すことなく大切にして可能性を潰さない、の3つを紹介した。

講演後の質疑応答の時間では、「介護の現場と、子どもたちと関わる教員の仕事は大きく重なるところがある、どんどん質問してほしい」と述べた牧代表に、教育現場での課題や悩みについて、受講者たちから多くの相談が寄せられた。



職業とは何か？(小さな箱屋の後継者として)

林 清 滋

(株)ユニバーサルパッケージ 代表取締役

私は、富山市千石町にある箱屋の長男として生まれた。家号は林紙器工業所。私の祖父である林清蔵が、東京の箱屋へ丁稚奉公の中、関東大震災が起こり、富山へ戻り起業したとの事である。ちょうど100年前、当時は紙を包丁で切って箱にしていた。富山は配置薬業が盛んであり、配置箱である通称赤箱を主に製造しており、多くの従業員がいた様である。時代の変化と共に、赤箱はプラスチック箱に変わり、その結果売上が減少、業務用の輸送箱やお菓子箱の製造を行っていた。父は祖父の三男で、その仕事を引き継ぎ、職人肌の経営者であった。私は一人っ子であった為、幼少の頃から、家業を継ぐ事が大前提で育てられた。小学校の頃から集金をさせられたり、トラックの助手席に乗り、配達にもよく行った。又母親も夜遅くまで箱製造をしており、私の面倒を見る事ができず、私は、昔でいう寺小屋みたいな塾に毎日通わされていた。学校と塾が1日の大半であり、お陰様で、小学校の成績は良かった。その後、塾も行く事が無くなり、急に成績は悪くなったが、何とか富山大学経済学部経営学科入学、4年間大学生活を満喫した。いよいよ卒業、まずは親元から離れ、自分の力で大手パッケージ会社への就職を考え、大阪本社へ勤める事になった。時間はあっという間に流れ、岡山、広島で20年勤務し、43歳の時、富山での再スタートとなった。

家業の内容を確認すると営業訪問する会社は1社のみ、あまりにも売上が少なく、私の家族の生活も危ぶまれた。翌日から、毎日飛び込み新規開拓営業を続けた。営業車は父親が乗っていた錆だらけの車でぶつけた所も修理されていなく、新規訪問先から車を変えた方が信用度が

上がるとアドバイスも受けたほどであった。初めての受注をした時はうれしく妻にすぐ電話した事を覚えている。金銭的にも厳しい時はあったが、何故か、仕事は楽しかった。サラリーマン時代とは違った感覚であった。その後15年が経ち、経済同友会にも入会、今がある。

さて、私は現在61歳であるが、たまたま小さな箱屋の一人っ子に生まれ、小さな頃からその環境の元で育てられた事もあり家業を職業とする事は当然であった。

職業とは何か？勿論職業は生業であり、生きていく為には必須な事である。しかしそれだけでは無い様にも思える。縁があり、現在富山みらいロータリークラブに所属しているが、ロータリークラブは他の団体と違う職業奉仕という奉仕がある。職業と奉仕という言葉は正反対の言葉の様にも思えるが、要は職業を通じて奉仕する事である。高い倫理基準を保ち、人々の役に立つ仕事をし、その代償として利益を得、税を支払う。会社の倫理観が高まれば自然に会社社員及びその家庭も幸せになっていくという事である。

当社の基本理念の第一に社員とその家族の幸福を追求する事を掲げている。社員が子供にこんなパッケージを作っているという、大きくなったならユニバーサルパッケージで働きたいという嬉しい言葉を聞く。全社員がやりがいのあるパッケージ製造ができる仕事作りが私の仕事・職業なのかもしれない。現在私の三男が会社で勤務しているが、日々楽しそう営業に取り組んでいる姿を見ていると富山で家業を継いでよかったと感じている。

(次号は(株)KEC 代表取締役の中川雅弘 様です。)

活動報告

5月1日～6月30日

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
5月16日(月) 16:00～19:30 事務局会議室他	第1回交流委員会	・2022年度活動内容・スケジュールについて ・海外経済視察について	12名
5月17日(火) 8:30～16:20 南砺市、砺波市	第5回文化スポーツ委員会	～富山の伝統文化と歴史や魅力を学び、和の文化を体験する～ ・城端織物見学 ・城端蒔絵 十六代 小原治五右衛門氏 講演 ・三遊亭良楽師匠の講演、落語	15名
5月30日(月)～31日(火) 福岡県、大分県	第8回地域創生委員会 (県外視察)	・福岡県福岡市： 官民連携によるイノベーション・エコシステム形成とスタートアップ支援の取組み ・大分県臼杵市、別府市： 観光資源を活用した地域の持続的成長の取組み	15名
6月6日(月) 11:00～12:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第9回正副委員長会議	・アスリート支援小委員会について ・第5回文化スポーツ委員会参加者のご意見（アンケート）について	10名
6月8日(水) 17:00～20:30 俵屋	企画委員会	第1回委員長連絡会議	6名
6月13日(月) 16:00～19:45 オークスカナルパーク ホテル富山	第4回教育問題委員会	・令和3年度活動総括について ・令和4年度活動計画について ・講演会 講師：富山県教育委員会県立学校課 特別支援教育班長 山川 俊幸 氏	23名
6月17日(金) 7:30～16:00 立山	第6回文化スポーツ委員会	室堂・称名滝視察	14名
6月22日(水) 16:00～20:00 事務局会議室他	人財活躍委員会 第8回正副委員長会議	・インターンシップ事業 ・起業家支援事業「スケッチオーデション」について ・女性活躍推進に向けた取組み ・第5回人財活躍委員会について	10名
6月23日(木) 16:30～20:10 ANAクラウンプラザ ホテル富山	企業経営委員会	第3回同友会経営道場 発表者 ・(株)生活ネット研究所 代表取締役 羽根 由 氏 ・金剛薬品(株) 取締役会長 米田 祐康 氏	33名
6月29日(水) 17:00～19:50 富山電気ビルディング	第9回地域創生委員会	第1部：講演会 演題 「100年に1度のチャンスに向けて～福井県の観光戦略・取組状況～」 講師 公益社団法人福井県観光連盟 専務理事 坪田 昭夫 氏 第2部：説明会 テーマ 今年度地域創生委員会観光分野取組みについて 説明者 地域創生委員長 山本 覚 氏	68名

○課外授業講師派遣

開催日	学 校	対 象	講師・演題
6月7日(火)	高岡第一高等学校	1学年186名	山野 昌道 氏 「自分の夢のを見つけ方 ～高校生活で意識したいこと～」
6月15日(水)	富山市立奥田小学校	6学年74名	島田 好美 氏 「仕事の話～いろんな仕事に出会ってみれば～」
6月15日(水)	高岡市立牧野中学校	2学年86名	牧田 和樹 氏 「よりよく生きる」
6月20日(月)	高岡市立戸出中学校	2学年106名	牧田 和樹 氏 「働くとは」
6月24日(金)	富山市立興南中学校	2学年89名	荒井 洋平 氏、尾山 謙二郎 氏、辻井 益雄 氏 テーマ「働くことの意義と心構え」
6月24日(金)	舟橋村立舟橋中学校	2学年40名	伊東 潤一郎 氏 「働くとは」

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
5月6日(金)	第3回全国立山大使の会	過門香 KITTE 丸の内店	21名
5月8日(日)	令和4年度県民ふるさとの日 記念式典	富山県教育文化 会館	中尾特別顧問 塩井代表幹事 牧田代表幹事
5月10日(火)	第1回委員長会議	オークスカナル パークホテル富山	19名
5月10日(火)	令和4年度富山県水と緑の森づくり会議	富山県民会館	稲田常任幹事
5月16日(月)	(公財) 富山県暴力追放運動推進センター 第1回理事会	富山電気 ビルディング	東澤幹事
5月18日(水)	富山県キャリア教育推進委員会 (講師)	富山県総合教育 センター	伊東幹事
5月28日(土)	(公社) 富山県建築士会創立70周年記念式典	富山電気 ビルディング	牧田代表幹事
5月29日(日)	とやま森の祭典2022	県民公園太閤山 ランド	稲田常任幹事
5月31日(火)	東京富山県人会 令和4年懇親のつどい	ホテルニュー オータニ (東京)	麦野代表幹事
5月31日(火)	北陸原子力懇談会 第47回理事会・2022年度定時総会	金沢ニュー グランドホテル	桶屋副代表幹事
6月14日(火)	G7サミット教育関係閣僚会合誘致要望	首相官邸 (東京)	牧田代表幹事
6月16日(木)	あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会	富山県民会館	有藤事務局長
6月18日(土)	第82回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ	58名
6月22日(水)	キャリア教育指導者養成研修 (講師)	富山県総合教育 センター	稲田 祐治 氏 高瀬 幸忠 氏 川合 紀子 氏 丹羽 誠 氏 尾山 謙二郎 氏 福崎 秀樹 氏
6月30日(木)	令和4年度観光事業振興功労者表彰式	富山県民会館	塩井代表幹事

開催日	内 容	場 所	出席者
6月30日(木)	富山市中堅教諭等資質向上研修（講師）	Toyama Sakura ビル	長 高英 氏 寺島 雅峰 氏 丹羽 誠 氏 牧 真奈美 氏
6月30日(木)	企業の脱炭素経営に係る情報共有・交換会	富山県総合福祉会館	梅野事務局次長

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
6月30日(木)	経済同友会中央日本地区会議事務局長会議 （福井経済同友会主管）	福井県小浜市	有藤事務局長

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
7月27日(水)	幹事以上	7月幹事会	ホテルグランテラス富山
7月27日(水)	全会員	7月会員定例会（文化スポーツ委員会主管） 講師：NSGグループ 会長／(株)アルビレックス新潟 取締役会長 池田 弘 氏	ホテルグランテラス富山
7月31日(日)～ 8月7日(日)	全会員	第40回海外経済視察	米国（オレゴン・ サンフランシスコ）
8月28日(日)	全会員	「同友会の日」（富山GRNサンダーバーズ戦）	県営富山野球場
8月29日(月)	新会員	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	オックスカナルパーク ホテル富山
9月10日(土)	あけぼの会会員	第83回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
10月3日(月)	正副代表幹事 交流委員会 担当委員長等	経済同友会中央日本地区会議 （福井経済同友会主管）	グランディア芳泉 （福井県あわら市）
10月18日(火)	幹事会	10月幹事会	ホテルニューオータニ 高岡
10月18日(火)	全会員	10月会員定例会 講師：(株)ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子 氏	ホテルニューオータニ 高岡
11月24日(木) ～25日(金)	全会員	第13回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事 サミット（鳥取県経済同友会主管）	ホテルニューオータニ 鳥取
12月8日(木)	全会員	海外経済視察報告会・12月会員定例会（地域創生 委員会主管）・年末懇親会 講師：(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長 (株)メルカリ 取締役会長 小泉 文明 氏	ホテルグランテラス富山

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

哀 悼



当会特別幹事の永原 功氏（北陸電力(株)特別顧問）は令和4年6月25日ご逝去されました。享年74歳。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

〔表紙写真〕

称名滝（第6回文化スポーツ委員会）

立山連峰を源流とする称名滝は、落差が350mで日本一を誇る。新緑のこの季節、水しぶきを上げながら勢いよく流れ落ちる光景は圧巻。季節ごとに違った雰囲気を楽しむことができる。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



ライトミュージックコンテスト富山予選2位（昭和44年6月）



エレキバンドとアルバイト

有限会社ジェイシーパール 取締役社長

嶋 龍 仁

1952年1月に高岡市伏木で生を受けた私は、小・中・高と伏木から出ることなく高校卒業と同時に高岡で就職し社会人となりました。

小学校4年生までは伏木の玉川にあった料亭（当時玉川で最も大きな料亭でした）で育ちました。板前だった父が料亭の板長をしていたので、家族全員住み込みで暮らしていました。伏木港は、もともと北前船の寄港地で日本海側最大の貿易港だったので伏木はとても栄えていました。その昔は料亭なども多く「玉川新地」と呼ばれていたようです。子供の頃は勤め人の子供にもかかわらず、その料亭の主夫婦に可愛がってもらいましたが、料亭の廃業を機に両親が独立し伏木駅の傍で寿司と小料理の店をはじめ、私は客たちの喧騒と電車の音の中で青春時代を過ごしました。

エレキバンドとアルバイトは？と思われそうなので本題に。中学3年生の時、高校受験に向けて学業に励む筈が同級生とバンドを作ること

に。世の中はグループサウンズ全盛時代。動機はモテたいから？楽器を触ったことのない音楽活動とは無縁だった私はバンドマンになり、ここから私のバイト人生が始まりました。最初は鉄工所へ。その後伏木の酒屋さんに。毎日業務用自転車の荷台やリヤカーにビールの木箱を積んで飲食店へ配達に。大晦日にはお正月用のお酒を除夜の鐘を聞きながら。我ながらよく働いていたと思います。アルバイトでこつこつ稼いだお金で楽器を購入するわけですが、いつまで経っても払い終えることが出来ず結局3年間の高校生活はアルバイトばかりしていました。バンドの方はと言うと、今でいうライブのようなものを自分たちで企画し開催していました。もともとセンスのない私でしたのでまったく上達しなかったのに何故か自分でも不思議なことがありました。それはヤマハライトミュージックコンテストで富山予選2位となり北陸大会に出場したことです。これは今でも謎です。